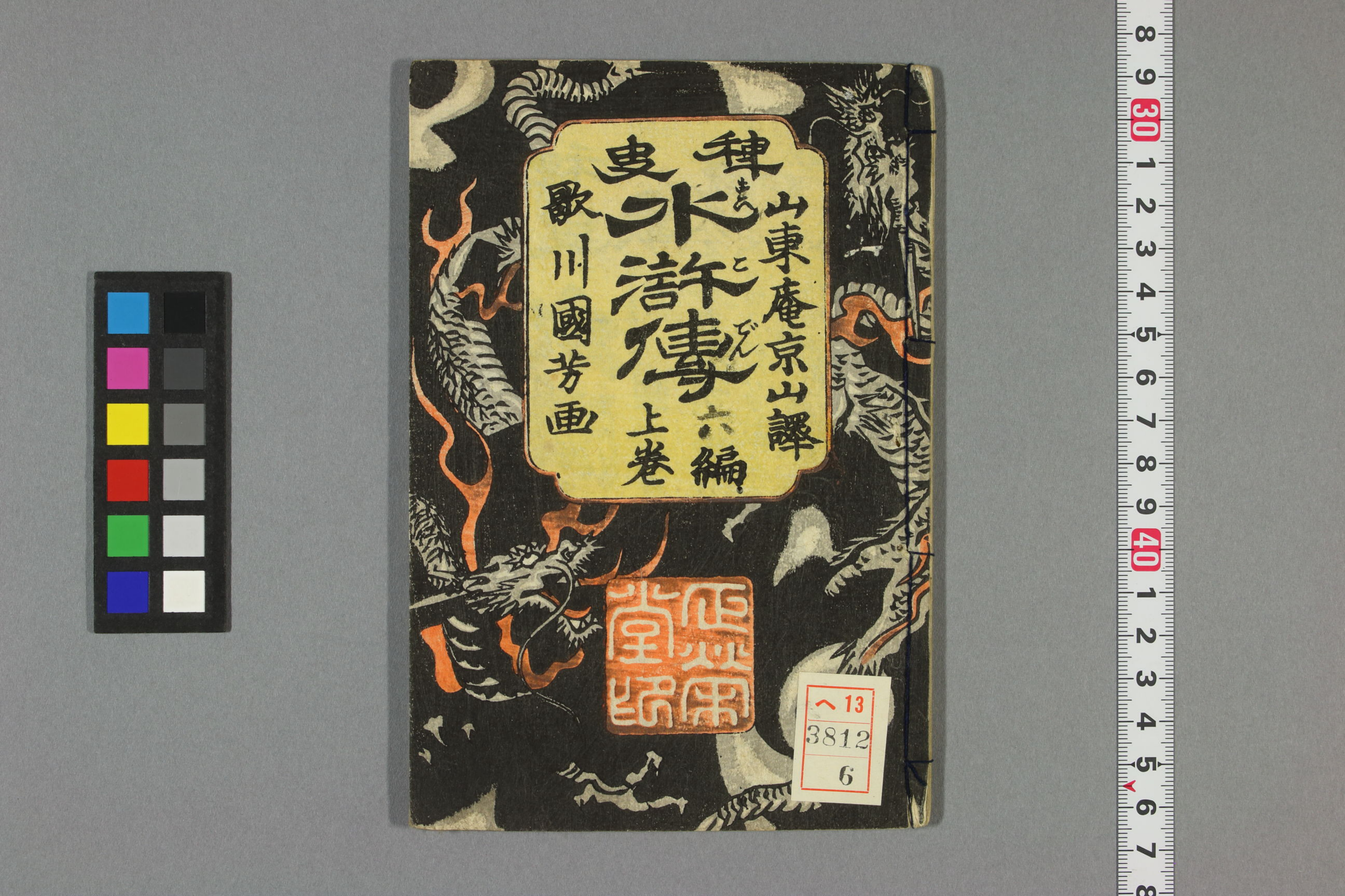

山東庵京山譯
稗史水滸傳（しすいこでん）六編
上卷
歌川國芳畫
へ13
3812
6

へ13
12
6

# 稗史 水滸傳 上巻

山東庵京山譯
歌川國芳画

文政五春 編

完改全子の春京傳稿本水滸傳を譯して大る世に行る故今旧編を補ひ画作華に異まして新編となし一主飲諸呉一賢戎下して再評戎賜ハ幸甚

江戸 須原屋伊八
仁栄堂 歌白

稗史水滸傳 上巻

つゞき

うゝびんあ
あひさうあい
けん紙ゆぢさえ
ゐきされをまじと
ゆどうぐゐきされ
いつで大尉
さぞと
よろこび
あのうえん
とまちより
ふすあ
けまび
林冲もかわく
大尉ゐつるぎと
ゑゝびんさたあさ
ゆゆゆけまび
さのゐとのゐと
ゐりひかの
けうしふあこゞひ

(三)ざしき
ゆそはれ
くゞ
きさう
だた
ざゝなよ
ゆゝび
ゆうろ
さつるをを
さげくと
ゆへゝへ
大尉(三)

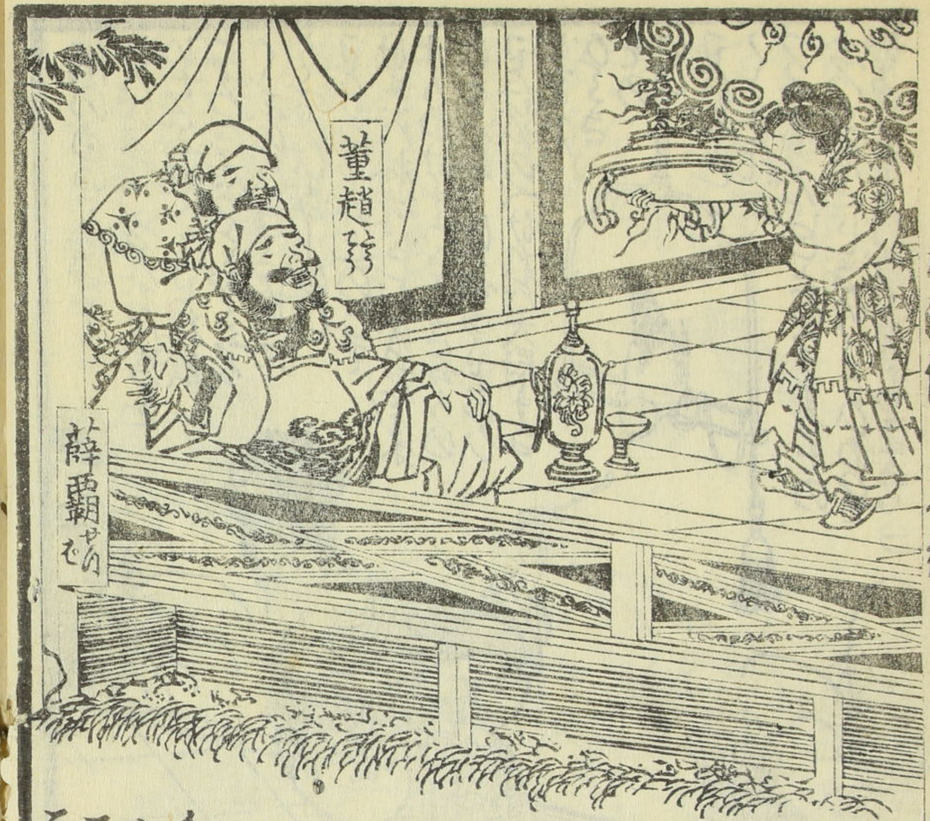
(四)ぶれいがうかのもの
はゆゆゑるゆせへ
がそんのゆゑびるゆも

つゞき紙りちく
大尉ゐゆゝへ
のそあたけを
○かくてかの
けゝい林冲紙
とゆゐひく中ゆふ
いさうけまび又一人の
けゝいたちのそたふ
よろこびさろそくの出
たんゐもさそしまんそく
せゝうたゝまゐゝくひゝへ
あゝとくゐゝくゝしゝ
いゞくきさう大尉八今ゐくでんふゐあへ
ゐりつゞ紙りこせ林冲をうまきされ
とのことゐりゆあんゐのゃたゝと
さたふさちゝくゐゝゆゝくゝまあた
たふひゝくゐゝとそうのけゝのハ立さう
けゝと林冲このざゝたふかけゝろゐゝく紙
ひゝく大ふゐどゐきこゝを酸虎部堂し
これすゐうち天下の大ゐ紙をゝだんすゐ(一)

のれ
ちゝ
きゝ
ゐゝと
つゝきを
さげく
たちのそんを
ゐゝうとたた林冲
まそゝとこゐゝうけ
くゐゝきの
たゝゝり紙かた
あげ高大尉
あまゝこのけゝの
紙ちゝゐゝく
ゆゐゝぎひで
ひんちゝう紙
ゝとゝれあ
けまび林冲
ゆゝと平ゆゝせり
高大尉ゆゝくゝと つゝき

林氏父娘
錦兒

林沖妻




つれ　うけこるなり。このあと林冲ふつるだをうやつけ今日白虎節堂へつるとせむるつのつまにおとしいれこるもこをこるなりの陸謙がこかりごとこ。高大尉やんちゃ公まとつまにおとしこれ公ちろーくほるをうびひせがまにのこんとそのこるりごとるればすでに死けのふきにあこるを林冲がむじつのつまに公ぬびんふるんりのあるくさこるぐ大尉公いさるけまで官人の命をこること大尉のかすもまりせかく林冲ふんびこる公全さく滄州といこるこるのこるれもこるぐりのふきにあ二人の下官ふけいごさせくそこるこるう（おこるせけゐこれするわちこるわてやんちゃ公ころさせんとのこくこるなり

○ここにまこ林冲がつるの父を張教頭とくこれも武げの公ぬ〜中官人るり林冲がるの公きくく大にるげきいんとこ思てこれ公すくんとるりくどもせんくこるく命だろハたするりてこのーよるりむくは娘の張氏（ちゃうせけまべこの四五日公ちくどもせんたぐるるわしてかこるけるぐ命だろハたするこしときくナにハるこぐ公とあ今日まい張いるときくく父とるろともちまこみいでく林冲をまちうけまいるくつまあくけいとこの下官董超薛覇といふ二人のりのこがわ公わくこくまバーのかこをうけ酒やこともるひ酒公すあくこのまふまくせまるた父の張教頭娘公つまこて林冲ふあハせけまべつるハやんちゃがかるすぐこのこひうせ公ゆくこるすぐうこるこ公あげくるたぬ〜

錦兒きんぢ
林冲妻
林冲

林氏父娘

つれ　こそとうて
まことのあつとは
むこうとけさう
ゆかはあつく
おそざーぐ
うるめい
いのちぐ
わきだ
のちくもあつう
どのの
つけあつと
ありがく　一

二　ひあいコロこへぐとろいとれ
とことあのさどぐすーとと
めたすでんぎひとアんけまべ
アんちう　三

四　こそうけまきて
コぐつるさや
まつるむすあ
たうアしや
てもるせと
つぎはりぎ
とあつあふ
ゆぎちく
さうはかれすく
。始てさうこの
さうはかれす
すてこれば
りまでも
林沖が女房
ぎやぞ
てーと
りつとも
おまぐ
ときこく
ひととうく

あひもさて
とうちやあの
いのまぐ
せんるのるせ
コとれのさう
づたをー三人
ぎまぐいう
おりしもけいどの下官
どもさてく水ぐる
れのコろいコろこち
むべひも百まで人
うぐてくアんと
アんちうきこれ
とれのあつけとた
コるの張氏コとの
ちうまりきの
ぬうろにいれさう
とがれかアん沖ふ
まこひとつこの
かれかうのけうんに　次

董超
薛霸

林冲

つゞき 下官ども きりに
まろうつけくのもまセ
ろう林冲むりんを
ちゝくびにかけ
いろうくちとこゝろよ
たゞりつきゐ

㊂ さゞ
うく
ちゝくびれ
あひ
ゐるんまだ
あーかあひ
あくちく
ゐんちうぐ
にをかけ
たろあーの
もとたろう
いかをを
ーれれば
林冲へいろよ

㊀

魯智深

㊃ 一かけ
のあかりろ
きうのぐ
四かあひ
ゐとうねく
たゞゝろ

㊄

㊅ あゝ
あれ林冲
があく
たゞのごく
ゐゞうはまど
あるとゝーー



ゐたりて酒ゐう
とゝうこびろうが酒ハ
乃ゆくたびく酒ハ
のまセ西のゆすむまこと
酒をのまんとのうゐんと
ゐゆゆゐとゐとゐとこ
にゐとゐくたんと
すゐをあーとあまが
むーかのゐあとび
ゐゆくひとろハ
あーを
とゐゐ
かゞうんとゐふ
ちとゝてゝゝと
いろげうん

㊀

林冲ちう

薛霸ちう
董超ちう

林冲ゐ
とろまち
をの
ゐゞ
ゐく
たゞ
ゐれ
ゐがる
林仲
あゝと

つゞき

魯智深
林仲ハ
高俅
富安陸輔
鮮西鞠

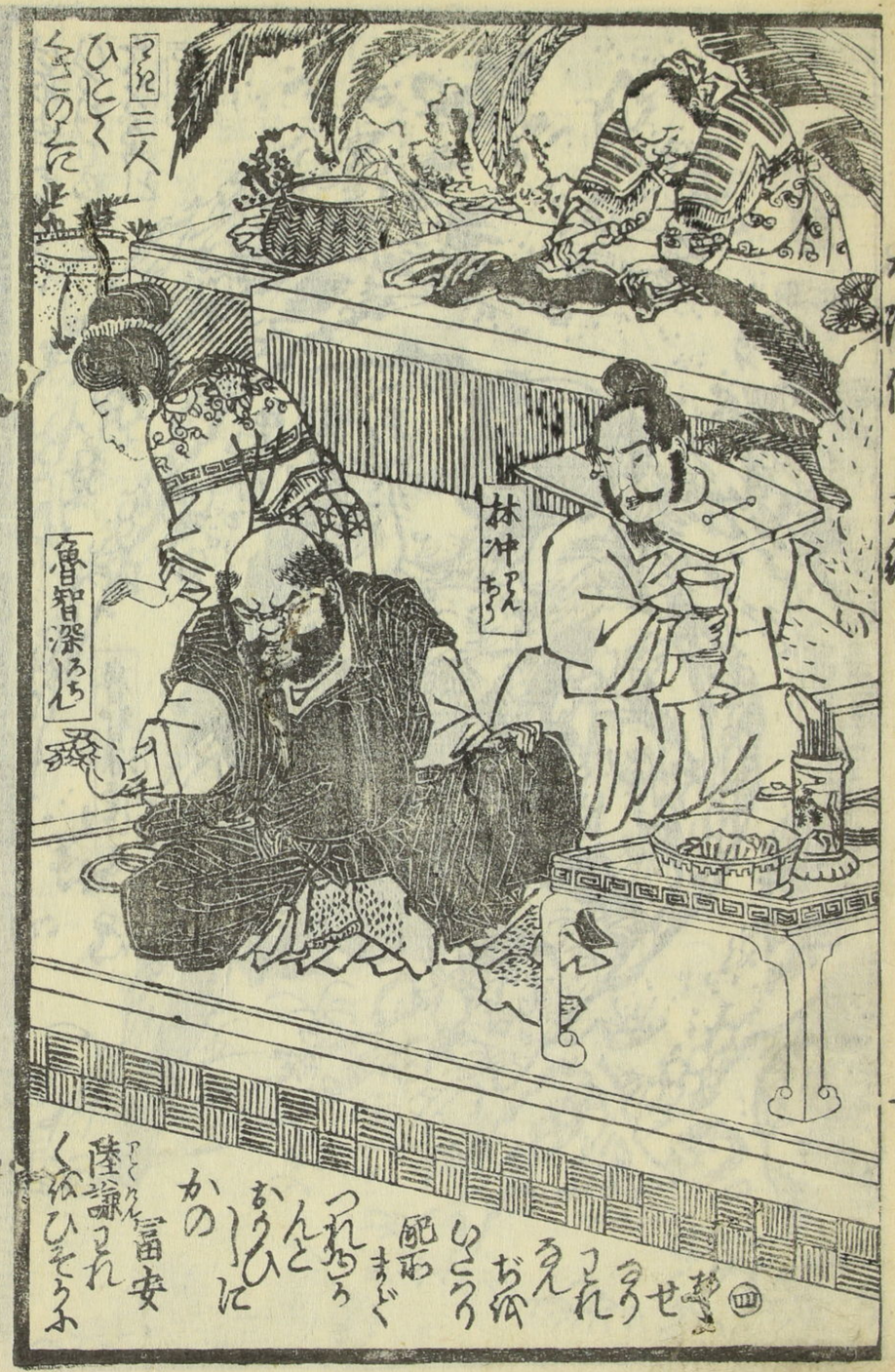
林仲ハ
董超

つぎの夜もあければ林冲をしばしくくれさろめくもうせのちろうにあのさてやらまたろうめれ山にてとろうばとふつぎのとろうんたびこんにこれ

下官らんたびのあいだもうさてつれもさきハ
かくて十日のいろごろ
大ろうさ年あるもの
いとまろけもの
ちゑあいさ
ろうて




けあるもてまろ〳〵
ひろれてめ
そろ〳〵と
つきん




天保七年丙申春新彫

# 侠紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

当年十八編より九二編まで開板おかたらずに笑覧を程奉希ふ

## 一筋道雪駄望

空亭仙果作
歌川國芳画
全四冊

## 枕久の十徳世話蒙求

笠亭仙果作
歌川貞秀画
全四冊

## 紫房紋多箱

仙客亭柏琳作
歌川貞秀画
全六冊

## 糸柳花縁結

笠亭仙果作
歌川貞秀画
全四冊

種彦校合
井筒屋の瓶子
八百屋乃娘

昔噺ちちんぷいぷい 三冊
むら〜話小さきぢゞい 二冊
むら〜話浦島ぢゞい 三冊
茶番のいろは 二冊

御ふくろ袋入
小絵ざうし
種彦写書貞秀画

書物地本錦繪問丸 通油町 仙鶴堂鶴屋喜右衛門

山東庵京山譯
稗史
水滸傳
下卷
歌川國芳画
正光堂

山東庵京山譯　文政丑春

# 稗史水滸傳編

歌川國芳画　下卷

つるを
林冲
魯智深


董超
薛霸
魯智深

つぎは えんぢらぐ
林冲

林冲
董超
薛霸
つぎは

つぎに
つぎにまち
入あひ
きてしあへ
まあ
たづれ
さこ
だち
なす
ナの
ろと
ろと
りつ
ま
ちと
ちと
ちと

つゞき

「ヨレヨレ」
きの今
なたす
かゝ〳〵へ
まつさくもきうのやぐこと
ぶりヨレヨレきう
なこしこく
ふけさんん
ヒヒヒいとあす
けれともさすれをの
つこあるとうつるたむろふ
ぶり〳〵ヨレヨレこれ
ちのひびはのち高俳

柴進さん

四 ちくたくたぐたなとぶれを
うまびとといひ
ふれば林冲も
ことうなる 四

六 ほうしに
ヒヒヒ
ちうりう
ちうちん



いうるうくんかりどこなる風ひく
ヨレヨレこうさんとうるう
ゆくびそのるにのどんぐ
とものかくもようるぐ〳〵
ひとまづ風ひいろて
たいちゃの時をえく
ゆくびちゃとかアとと
ろちじんちきりにるぐき
ろうともるうちうくびヨレヨ
これなりこ二人の下官なるを
かのをじうまでもあん多を
まくうちぐ〳〵と四人は家
ちきろてぬりとんぐろう
ちくるなるとめく
どんぐくなるとろく
ゆくまやろりこれろう
ろちうんあ人の下官
さるのどくあひまして
ヨんちうなりやまうも
めうとなるいあぐなる 一

二 うとめく林冲なるのも
下官二人にこれなるあう
ゆくびそのるにのどんぐ
ぐもすとしゆくるもあれへ
すうとなるてうはしければ二人の
ゆくくちうなるのこゆ
下官へろちちゆくちまれ
ようんちうなるちまさえの
どとくいうるうろ
かて十日ごろ
なへくちうちうこ
のちにいくうろ
私のくやくくくく
入りくちうちん
ゆくちうちん
林冲にむうひとれろう
ちくぐうの配下へ
ヨぐくこ二ひのうにて
されいつるるうヨれなにく
ヨうれゆくるーすのぬん身なまりて
ちくきにうしまるなるる

両人の下官になるひうんちう
ちうとうゆうるべ大相国寺の
使うるもしとうるものの
ヨんちうなる

かの高大尉に
あるこけるとろ
してうんちうが
ちくきなるる

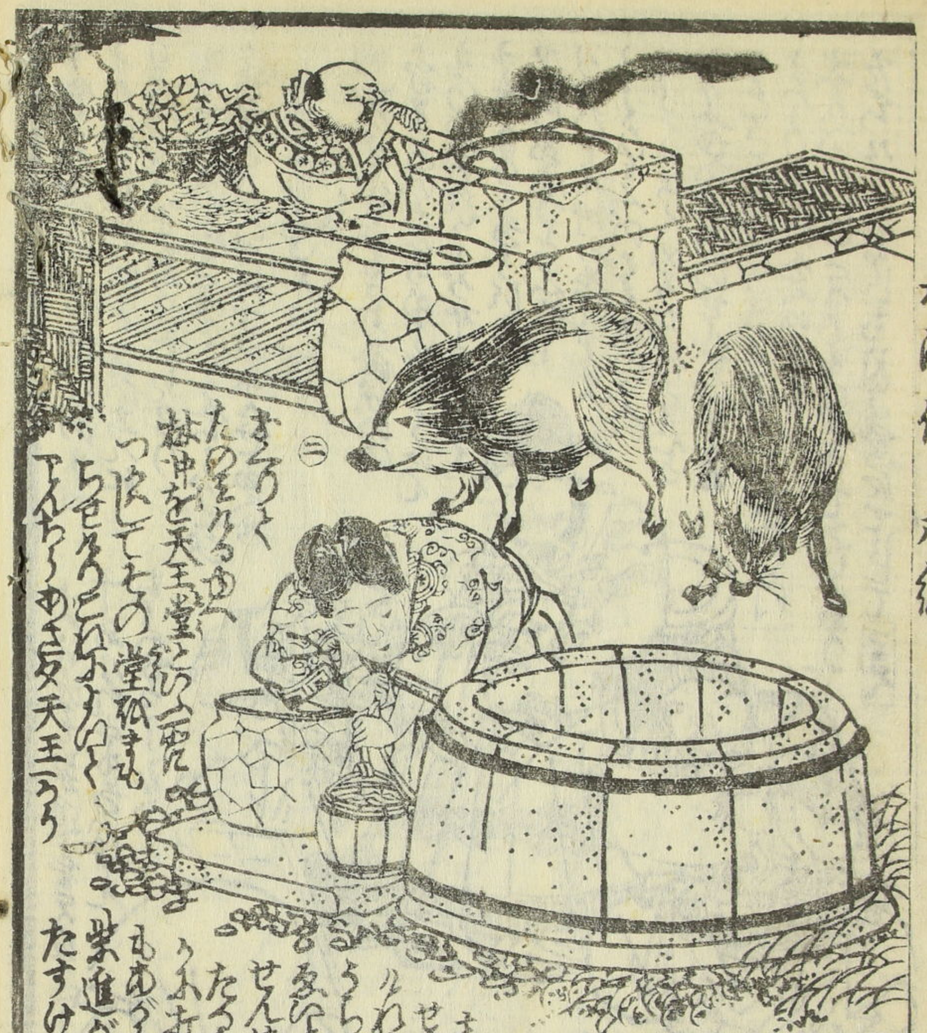
八 ひとうるぐ

つゝた　ゑんぢゝこれ
ゝ林冲ゝのゝゝ
滄州（あをうしう）とゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

っかくて柴進林冲なとでめくさるぐめく
[illegible]の下官らにも金子なめさければ
一天にはろこびけ日八柴進ろこおろ
けっしかくて夜に入けるこびぬさびさうぐき
なめくさめ兩人の下官らもおうぐく
ざしなにつくるせんちのるろう
かのかるぐかづしきさうるか
ふうてていれのかちにしければ
林冲柴進ぐくを敬する德に
ふくしきさかうれたびだちー
ろうこのろこ今日にあくれ
ひくけくたにあ[illegible]ろうかるあ
しもけくいきさうてひんきぐく
せんせんきさうあくく
おうてのかぐしきさに
まちあ柴進
多紙おてろう
こびさひいと
のかくてきさるぐかと
まくゆとかのせんせの紙
つき

水滸伝
柴進
つれきたりぬ林沖がに来くらくこれるらず柴進が武げのの者をうるびくやしくまこいかるさだん
柴進
林沖
四林沖がちろりけきちろけき
水滸伝
林沖
洪教頭
どの林沖ハつぎのせんにさし入ろ月をちろめちろきぬゆりしてろうろうさのちんのよくりんちうがてきのどこにおりひあちちんの来くちろぐろぐんせんせのこのくれかろんどあちこちろれとりんちろくれゆびさーけれびかのせんせんなくとぞれ来ちれうくかちがれ武げれこちろこんちこれとまのれこ
ちろ月にかけくと元ろくあーちろちんちろつしんぐちれ
ちーけれどもこのせんせのさろにのさろふもおりびれ林沖がんちりたるたろうちんちんせんせんにむちうにんハ東京のくれ八十方禁軍鎗棒のせんせん林沖どのく洪教頭ちうづろくちろちろとひたのわせれびれ林沖きちもつしんぐちれこれハとぞろうれびかのせんせんコレハとぞろうのちろくちちろぐのちろのちろ柴進こちれちくこちろのうちにハ林沖ちちちおりつんちちちちぐきのぐくにおりひろりかのせんせん
柴進ぐこちろもちろに柴大官人ちちのれ
ちんろのれちちる
柴進
柴大官人
林沖
洪教頭
どの林沖ハつぎのせんにさし入ろ月をちろめちろきぬゆりしてろうろうさのちんのよくりんちうがてきのどこにおりひあちちんの来くちろぐろぐんせんせのこのくれかろんどあちこちろれとりんちろくれゆびさーけれびかのせんせんなくとぞれ来ちれうくかちがれ武げれこちろこんちこれとまのれこ
ちろ月にかけくと元ろくあーちろちんちろつしんぐちれ
ちーけれどもこのせんせのさろにのさろふもおりびれ林沖がんちりたるたろうちんちんせんせんにむちうにんハ東京のくれ八十方禁軍鎗棒のせんせん林沖どのく洪教頭ちうづろくちろちろとひたのわせれびれ林沖きちもつしんぐちれこれハとぞろうれびかのせんせんコレハとぞろうのちろくちちろぐのちろのちろ柴進こちれちくこちろのうちにハ林沖ちちちおりつんちちちちぐきのぐくにおりひろりかのせんせん
柴進ぐこちろもちろに柴大官人ちちのれ
ちんろのれちちる
柴進
柴大官人
林沖
洪教頭
水滸伝
柴進
林沖
洪教頭
水滸伝
柴進
林沖
洪教頭
水滸伝
柴進

つゝた
林冲ちん

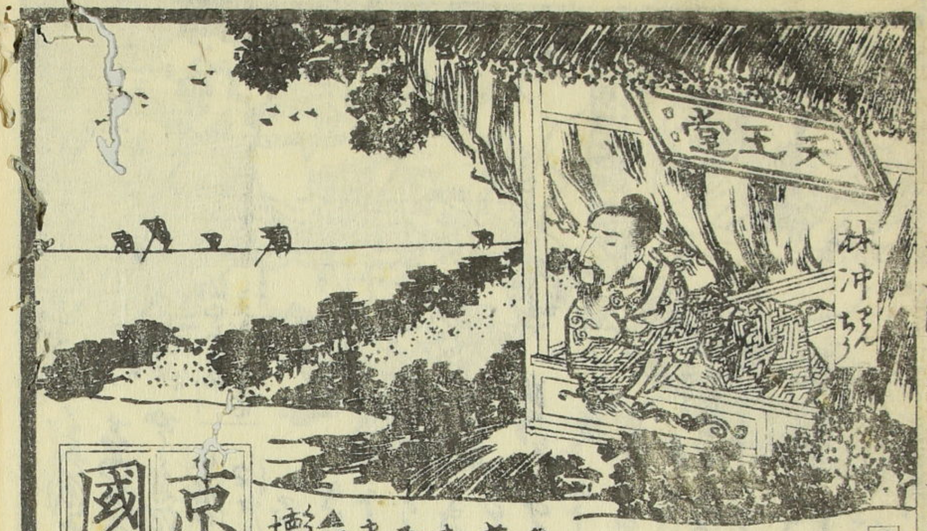




つゝた ひろのごとく紫進
ひめまこのけ〜いあん
がに紙つれくけん
ゆつす西へいこかとく
たかいにつめこせひさと
一こ忘うけくれあひが
ひんちろう指のまく
れときれのそれべ
紫進まころにんころ
まろくたくひさろちる
せんせいうだろ大にまれ
れべりこやろべたときと
うらこむこうかひろぷ〜
多ひと二れまもれべりの
せんせいまつまさるにたれ
たろかうこのめろをさろ
うふおすくけまべそのまこあた
もあべこんゆまろえろ〜まま
紫進がけいうけろやろく
たすけあひけまべちんで

くろ紙たろくまこてすべく
まるけのまろぎ紙てゆ
ゆく紙ゆすんしけや
若旦吉れいのけひろう
にゆ京橋京てんまゆ
▲こてしてゆ元一色まゆ
きこんのまれれそのゆ
よくそのゆろり天十毒紙く
うやひろめ大人ひ紙
きくに用くせひ紙
ろひ月のまこまろに
ろ人さるくゆそ
▲十三味業ゆこ水晶彩
一色百三十二せんま紙
白しいそのれせろ
たろこもかんせ玉の
でくきめこるに
ころけ金文やけこの
業にもめこ▲業はろい
白牡丹百百廿四せん

ひきくまろまくその夜ろ
いろくこもるくふけさろろくこと
○これろ紫進いろく林沖紙
ありくろゆまいろ日こめまた
てたこのつうれ紙ゆすめさせ
いゆく金銀をあこていまの
ゆくする人ゆもの紙あろく
ろんちろうこと紙たのころ
林沖まろく紫進ごにこ紙
かんこめつまこ紙のべゆまこ
まの紙さこくたちいころ
○これろりゆんちろうをこいろの
紙ゆくいろて三ろ月ろこの
ゆいこさるぐのろんぎに
のいこ紙ろこいゆろうこゆく
金紙まろこしてひここいへ
ゆろさこうんこまり金ろの
ここもたこまのいこくこの月紙
あろろりさいちんろ紙まこ
こまのゆまりろ人にりの紙○




京山譯
國芳画


天保七年申春新彫

琴声女房形氣　全四冊　山東京山作　歌川國貞画

森羅萬象人意氣　全四冊　五柳亭徳升作　歌川國芳画

浮波さうし　八冊　柳亭種彦作　歌川貞秀画

泉助左衛門忠義傳　全四冊　関亭傳笑作　歌川國芳画

稲葉山嶽の松枝　全四冊　宝田千町作　歌川國芳画

國字水滸傳　十四編　四冊　笠亭仙果譯　歌川國芳画

南かやの茅ぶき　美艶仙女香　四十八羽　南伝馬町三丁目西側　坂本氏製

黒油　義玄香　四十八羽　あらが除こまり　駿河屋佐右衛門

書物錦繪　團扇地紙　江戸通油町　問屋鶴屋喜右衛門